一日夕刊

磐城每日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵稅 金十五錢
□一部賣價 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□特報一欄 金九十錢
[illegible]
發行所 磐城每日新聞社
發行兼編輯印刷人 森合英

モーターのうなるや窓の花吹雪
いた〳〵し赤き若芽に風さやぐ
磐每生

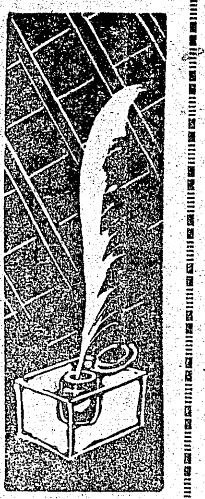
閼伽井嵐

文化協會の聽衆

木下雁次

磐城文化協會の發會式及講演會は雨が降つたせいか聽衆は割合に少なかつた。聞く所に依ると平市は一般にかういふ講演會などには聽衆が集まらないのが常例ださうだ。四六時中商賣其の他の仕事に繁忙としてゐるのだからたまに東京から來た講師のあるやうな場合は努めて出席して利害打算を離れた大きな國家の運命の問題、郷土文化の問題をきいて見る事は非常に大切な事であつて、さうする事に於て我々はより高い水準に我々の精神をすすめて行く事が出來、それが日に見えぬ働をなして我々の生活の向上ともなつて行くのである。そしてそれが知らず〳〵平市の文化の向上ともなるのである。文化運動の使命はさういふ所にもある筈である。馬鹿〳〵しいとかつまらんとかいふ風に考へる人もあるであらうが、その馬鹿らしさつまらなさの中から家でぶらぶら無駄話をしてゐるのと違つた何物かを捉へ得るもので あれだけ地方文化振興の問題はやかしい問題であり、講師は有名な人なのだから一つ行つて聞いてやらうといふ方が少しありさうにも思ふが平市そのものに文化問題に興味を持つ階級の人がかくも少ないのであらうか？

しかし當夜集まつた人達は何れも眞劍な人達ばかりで、瞳を輝かして一語も聞き洩らすまいとしてゐる態度は頼もしかつた。結局他都市のやうに彌次馬氣分で入場するものが少ないといふ結論に達するわけであらうか。



春宵文學話（しゆんせうぶんがくばなし）

【於霞ヶ關茶寮鼎談】

（三）

大鹿卓
榊山潤
富澤有爲男

◇佐藤春夫と山本有三の相違◇

榊山　佐藤さんといふのは眞に天分の豊かな藝術家なんだ。ところが山本有三といふ人は、かういふ事を云つては失禮だが天分の非常にすくない人だと思ふ。あの人は、あくまで自分の努力で切り開いてゆくんだ。だからこの點で山本有三と佐藤春夫は對蹠的だと云ふことが出來る。いはゞその間に立つてゐるのが僕で、佐藤さんのやうな天才でもなければ、山本さんのやうな努力家でもない、そこで僕が考へたのは、自分は中途半端なんだから、中途半端な人生が小說だと佐藤さんが言つたやうに、もし行ひうるとするならばそれは時の勢ひだと思ふ。この時の勢ひといふのは、自分の中にある時の勢ひでヂヤーナリストの中にある時の勢ひではない自分の力で書き出して、さうしたものを試す心算でやつたのだが、かういふ事があるかどうか知らないけれども資料も何もなしで書いたと云ふのは、たしかに時の勢ひだね

大鹿　その勢ひは慥かに出てゐる

榊山　あれを書いて、僕はなにか、自信を持つたね。

記者　時の勢ひといふより、むしろ生活を持つてゐる強さだと思ふね。

富澤　新聞小說を書いて偶々自分の生活を知つたんぢやないかと思ふ。

榊山　さういふ言ひ方もできると思ふな

富澤　山本有三といふのは生活の有り方をやつてゐるのだ。それが君のは生活の有り方があつて、偶々新聞小說で生活の有り方を觀たといふのだな

記者　大鹿さんは、小說を書いてゐる間に偶々階梯が變つてきたといふやうなことがありますか

大鹿　それはありますね。大体の道筋は變りませんが、大体がある一人の人間の成長して行く過程を書かうとしたのだから……非常に大きな打擊をうけて、それから立上る人間を……それは立ち上り方といふのは振幅は小さいかも知れませんがとに角さういふ人間を描かうとしたのだから、その點では變化はないのだがね

春雨物語（二）

大森勇

裏長屋にも
こんな美しい
家庭がある

春雨に春の匂を嗅ぎ乍ら、落花を踏んで、さて自分は何處に行くのだつたらうかと思ひ直した程、春の色濃やかな夕であつた。ある饂飩屋の眞暗な路地を足探りに通つて、病家はその裏の粗末な長屋であつた。一室が一家になつてるのだから、二室續きの長屋で二家族が入つてる。室の前に緣側がある。室に入るには緣側から上らなければならぬのだから、緣側はこの家の玄關の代用をしてる、緣側の衝き當りには炭俵等々が重ねられてるから、緣側は物置の代用もなしてるのだ。また緣側で煮燒をするから台所の代用にもなつてる、代用品を使ふ事が新体制の特徵とすれば、この家は新体制の模範である。室は四疊半である、お隣とは襖で仕切られてる丈けである、室に入つて一番先に心配した事は、お隣は若夫婦でなければよいがなーと云ふ事であつた。壁にエス樣の聖像が張つてある，その下に十字架が下つてる、少し離れて左の方に窓の彼方を眺めてるマリア樣の聖像も張られてる、クリスチャンだなーとわかつた、緣側が玄關物置台所の代用をするこの新体制で、クリスチャンとは奧床しい、四疊半の何處の隅々にも愛の雅香が漂うてる樣に思はれた。病人はこの御家庭の主婦で四十路を越した氣品賤しからぬ女性である。御主人は某縣の縣廳の土木課に勤務されてたのだが、長い病の床に親んで、多少の貯ひを使ひ果してこの世を去つてしまつた。

『新律短歌』

（平）　長谷川正男

一、新しき學帽が顏一杯だ　不自由さうな步き方に嬉しさがうかがはれる

一、曇空にくつきりと青い空　湖の樣だ　私は小舟を浮べようと考へた

一、編隊飛行を仰ぐ空に日の丸を見て　奉公日の戰地を想ふ

一、夕燒に明日への喜びを抱いて　曳く馬方鼻息も見えない早春

一、池に浮ぶ寒椿の花片　鯉がパクリ此處にも訪れた淺春

（平）　馬目智夫

浴衣一枚の取的の卵　ランペヤの顏が笑つてゐる

櫻と水の色に目を丸るくした橋の上の豆行司

ピヤ樽が轉がつた歡聲　やせた力士が笑つた肩がゆれる

觸太皷湯の嶽に雪化粧　化粧廻がきつい無慘修業のむち　土表外のはだしの力士笑へない

一寸觸れてみた力士の腕　名物颪の名が情ない

何回も卷いてみる新入生の紅い頰、朝のゲートル卷き

馳けて行つた白線の戰鬪帽、目を落したら小さな芽が仰ぐ

異說赤穗浪士（いせつあかほらうし）（184）

桃川若燕
（畫）城木喬

進退谷つた上野介大石內藏之助同志一同は、呼子の笛を聞くと、

『それッ』

とばかり集まつて來る、

『問、土藏に入つたのは武林か』

『ハッ、唯七が只今飛び込みましたが、此の中に潜み居りますのは確に上野介と察しました』

と云ふ折、武林唯七は白髮の老人の襟髮を摑んで土藏の外へ引き出した。跡に續く二人の小姓は怖ろしさにブル〳〵慄へて居る、內藏之助は白髮の老人を上野介と睨むと

『アイヤ武林、大切なる御方故手酷い事を致してはならぬ。又二人の者は召使小姓と見える、お身達には恨みはない。怪我せぬ內に立ち退きなさい。併し夜の明けるまでは土藏の中に在られよ、唯七にはその御方を廣間へ御伴れ申す樣仕れ、倉橋、富森、前原、岡野の方々は前後の締りをなし下され、その上廣間へ御出でに預りたい黨中に怪我致したる者あらば互に手當を致し是れも廣間へ案內下され、又第一に火元を嚴重に用心致されたい、若し過つて當家より出火致したる時には御隣家へ對し申し譯なし、且又大公儀に對しての聞えも如何かと思ふ……』

遉は總師大石內藏之助、黨中の者に充分心を配り、その身も共に上野介を伴ひ廣間の正面へ來た。その周圍には四十余人が輪の如く取り卷き、中にも內藏之助良雄は鉢鐵入りの火事頭巾を、大石瀨左衞門に渡し謹んで頭を下げ、

『某事は、淺野內匠頭家來、年寄役大石內藏之助と申す者、先年三月十四日、殿中に於いて御場所柄を忘れ、主人內匠頭長矩樣尊公に對して刄傷仕り事果さずして當日田村邸にて切腹仰せつけられ、五萬三千石は一粒も殘さず、改易仰せ付けられ御舍弟大學殿は本家安藝守殿にお預け仰せつけられ、右につき我々一同浪人に相成り、遺恨止み難く、亡君の殘念相續致し貴殿の首級頂戴致したく推參致したる次第、我等が微意お汲み取りの上、潔よく御自害なされい……』

大石の丁重な勸めにも拘らず上野介は頭を振り、

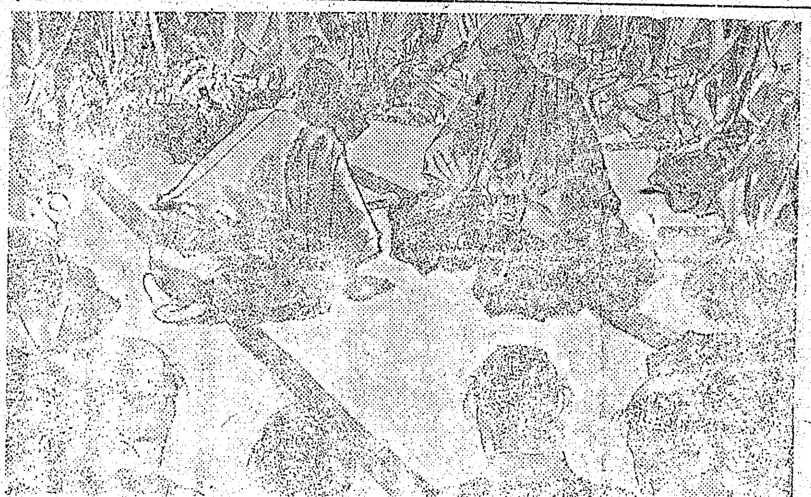
『コレ〳〵心得違ひを致すな、予は吉良上野介ではない。今夜雪見の茶席に招かれた大友近江守と申す者だ。余りの雪に供へを歸し、今夜當家へ一泊致した。然るに內匠頭浪人亂入したりとの事。吉良家來共の知らせに余儀なく、案內を受けて暫時雜藏に身を隱したのである。心得違ひを致し他人を討ち取つて內匠頭の靈魂を慰める事はあるまい』

『這は御卑怯な御一言何程言葉を左右に寄せ申開きをなさると云へど、元來尊公の眉間に殘る月形の疵は去年三月殿中にて主人長矩が怨みの切先、その月形の疵ある上はお隱しなさるは却つて御卑怯な、最早免れぬ所なり、尋常に御切腹願ひ奉る、さすれば某御介錯申上げ御首級を頂戴致す、強ひて爭うてお出であるも知れず其の時は止むを得ず陪臣共多數にて手込みにて打ち奉るも官位に對して恐れある、尊公は從四位少將の高官のお身、我々共は陪臣なり、殊更浪人致せば町人も同樣、それ故にこそ謹んで君の御生害を待ち奉る。イザ御切腹下し置かれたい』

『いゝや何んと申されようとも予は大友近江守である。其方共大勢にて從四位少將の予に對し亂暴を働くは却つて本家の爲めにもなるまい』

『それこそお僞りの證據でござる、大友近江守殿は從位の下然るに自ら從四位少將とは僞りなさる證據。イザ御介錯仕るでござらう……』

と大石良雄は上野介の前へズイと進む



軍服と國民服
御注文並に既製品
高島屋の洋服
平市二丁目通　電話三六八番

切符のいらない自由に買へる粉ミルク
金鶴コナミルク
最良の母乳代用品　ボール箇入壹圓四十錢
市內特約店
三丁目　星藥店
三丁目　磐崎屋
三丁目　大黑屋洋品店
田町　マーケット
田町　大坪商店
土橋　マルマン商店
研町　マル井雜貨店
長橋町　吉村商店
長橋町　桝屋商店
金鶴コナミルク縣下配給所　平市三丁目　大黑屋本店內
特約店希望方は御照會下さい

建築木材ノ御用命ハ
木材、天上板
ベニヤ板
建具材
木羽、建築材
便利瓦一式
織田材木商店
平市　電四九〇番
製材工場　磐越東線赤井驛前（大作場）電二三五

磁器治療開業
マグネタイザー適應症
◎高血壓 ◎胃腸病 ◎蓄膿症 ◎痔疾患 ◎中風病 ◎脚氣 ◎泌尿 ◎心臟病 ◎神經痛
◎生殖器諸症 ◎カリエス ◎呼吸器病 ◎婦人病 ◎小兒虛弱體 ◎ロイマチス ◎ゼンソク ◎其他諸症治療
治療所　平市田町シンガーミシン會社二階
平磁惠院物理治療

口腔外科
齒科一般
森合齒科醫院
院長　森合芳男
植田町　電話七一番

內科　外科　小兒科　花柳病科
會田醫院
小名濱町上横町

日本油脂株式會社
特約店
ペイント類、ボイール油
ドライヤー、防銹塗料
船底塗料、屋根塗料
黑板塗料
一手販賣
磐城水產工業株式會社
小名濱町築港內　電一四四

產科、婦人科
（見習看護婦入用）
井坂醫院
平市田町　電五五九

耳鼻科
咽喉科
平市紺屋町　電六五一
增田醫院
醫學博士　增田[illegible]之
▽入院應需▽

三笠燒
色羊羹
味自慢　風味萬點
米屋最中店
平驛前中央通
モナカ屋がお茶受御土産として始めました、どうぞ最中と同樣御贔負を願ひます

良品選てん廉價販賣
パイロット萬年筆
¥2.00以上
御入學に。御祝に……
進物ケース呈上
平市公園前　角忠　佐々木商店
電話二三三番

故障の起らぬ
原口のラヂオ
原口無線電機株式會社製品は商工省選定一級品
MD−8號 微電界級 (公)¥.73·70
ラヂオは全部公定價格品です
ダイナミツク使用眞空管マツダ 12F 47B 57 58
MS−100號 微電界級 (公)¥.52·60
ラヂオとデンキの店
古山電氣商會
平市二丁目警察署通り（電呼166）

耳鼻、咽喉科專門
レントゲン科
高柳醫院
醫學博士　高柳博明
平驛前　電三三六

世界的治療機
超短波時代來る
四百四病の中『ガン』以外は必ず治ると東京帝大眞鍋嘉一郞博士の證明するアコマ超短波治療器にて一日も早く如何なる難病も實驗治療して下さい
お試し下さい　十日間程　無料實驗　朝八時より午後五時迄
福島縣總代理店　川崎松之介商店　平市新川町一四
特約店　丹野自轉車店　小名濱町

愈々運動のシーズン來る
スポーツ……ハイキングに！
聖戰下の……體位向上を！
靴と運動具の
大塚へ
平市田町銀座通り　電話七七番
野球、庭球、陸上競技、球技、卓球、体操用具
ハイキング用具　ヂヤンバーとズボン　ワイシヤツ（各種運動服裝類）
〔公定價格〕

國民擧つて防火塗裝を！
回危險に曝露する木造家屋
回手輕るに出來る防火家屋
回コロイド防火塗料の特長
專賣特許　太陽無機コロイド販賣店
大量使用の御注文並團体的御申込へは實驗の御希望に應じます
カタログ進呈
山田文一商店
平市仲町通り　電話二六二番地

被服の經濟と衞生と技術とに責任を持つ
ドライ・クリーニング店は
諸官省、各會社、一般御家庭御用達
最新式の機械完備せる
永山式特許　第四七四一號登錄
福島縣衞生試驗所第四八六號公認
全國洗染クリーニング業界技術指導責任者
あらゆる衣服の整理に物理化學を應用
專門業者用最高級新洗濟を應用
……常に先端を行く——
關西洗染協會顧問　永山眞彥
永山洗染舖
平市大町電（呼）三六〇
サボネツクス・トリクロールエチレン
大阪酸水素株式會社專門業者用新洗濟　東北業界共配代理

フタバ磁氣療院
平市中町公會堂通り　フタバ印刷所內
電話一九三番

五月の暦
石城・平の催し

◇一日(木) 興亞奉公日、澤村神社例祭、母性補導委員會（公會堂日本間）渡邊村國民保險組合開設 ◇二日(金) 平市會(警防團關係追加豫算案）◇三日(土) 渡邊村中釜戸諏訪神社大祭、平寫友會後援の觀光寫眞展覽會（公會堂第三ホール）◇四日(日) 野あざみ句會、磐城炭鑛被保險者表彰式 ◇五日(月) 磐中創立記念大運動會、市內國民學校虫齒豫防講演、統計指導者協議會(國体事務所)全國兒童愛護週間開始 ◇六日(火)【立夏、本日より愈夏に入る】平市春季大掃除平窪方面、管內郵便局長會議(公會堂) ◇七日(水) 健康週間終了、平市常會 ◇十日(土) 磐女職員庭球大會、平商創立記念日 ◇十一日(月) 四ッ倉分會演武大會、市主催第三回体操大會(平商校庭) ◇十二日(月) 國民体力檢定(磐中)平市大掃除長橋方面 ◇十三日(火) 平市大掃除四丁目方面 ◇十四日(水) 平工開校記念日 ◇十七日(土) 末廣海軍大佐講演(磐中) ◇二十日(火) 小名濱にて海軍艦上點呼廿一日迄 ◇二十二日(木) 青少年に下し給へる勅語奉讀式(昭和十四年)平第三校寫生會 ◇二十七日(火)【海軍記念日】平商全校マラソン、磐女縣社忠魂碑參拜、平第三校競技會 ◇三十日(金)【東郷元帥命日】舊五月五日節句

前線・銃後護る
平銃後奉公會の豫算決定
前年比一萬七千圓增

平市銃後奉公會の評議委員會は昨三十日午後一時から市會議事堂に開き、今年度の事業並に豫算案を決定した、今年は銃後施設や戰後慰問に重點を置き會員の數を增したので豫算總額二萬八千九十圓となり、これを前年に比較すると倍以上に當る一萬七千百八十四圓の大增額となつた

歲入 に於ては會費七千圓增して一萬四千圓の收入を見込み、寄附金六百圓、補助金百圓、立替拂戾入五百圓、雜收入二百九十圓、繰越金一萬二千五百圓

歲出 事業の方に主力を注ぎ、會議費六十圓、事務費七百七十五圓、事業費一萬三千二百五十五圓、家庭强化指導費三百三十圓、慰問慰籍費七千四百五十圓、犒軍費百圓、就職指導費五百圓、授產費二百四十圓、軍人援後思想普及費百五十圓其の他

事業費の內で最も力を注いでゐるのは遺家族慰問費に於て八百圓增して銃後の家庭訪問を繁くし、出征軍人慰問費も千四百圓增額してゐる、前線の慰問なども毎年一回を二回とするなど前線と銃後の慰籍に萬全を期し一般市民の時局と銃後に對する熱意の昂揚に努めることになつてゐる

慰問袋慰問文
「前線へ澤山送りませう」
四家防空課長談

市銃後會の豫算を編成してほつとした四家防空課長は語る

豫算は出來たがこれからの運用が大切です、前年より一万七千圓も增額したのは支那事變も五年の長期戰に亘り前線の慰問と銃後の護りを愈々强化せねばならぬと思ひ、この方面に力を入れることになつたものです、一般市民の前線慰問や銃後に對する關心が薄らいだと評されてゐることは遺憾に堪へません、銃後會と協力し前線へは慰問袋や慰問文を送ることを忘れず、銃後に對しては遺家族を護ることを忘れぬやう一層御努力を切望する次第です

平工業校
記念日に勤勞

昨年開校した平工業學校では來る十四日第二回の開校記念日を迎へる事になつてゐるが當日は記念式典の後午後から同校敷地に於て全校生勤勞作業を行ふ

平市の霜害
合計一萬二千余圓

縣下に亘つた去る二十七日の霜害で平市內の農作物の被害は市で縣へ報告する被害報告書に依ると次の如くである

△馬鈴薯、七割減收見込み一町歩、三割減收見込み七町歩△桑園、七割から三割減收見込み二十五町歩△梨一割五分減收見込み四町歩△被害總見積高一萬二千六百四十圓

中等校の翼賛
修錬隊組織の準備

中等學校の翼賛運動として文部省は學校に軍隊組織の長所をとり入れ、校友會、訓育部、勤勞報國團等の從來からあつた組織を全部解消して修鍊隊といふものを學校別に組織せしめ、以て學校敎育と表裏一体その敎育效果を向上助成せしめる方針を立てたため縣はその方針に則り、各中等學校にその具体案を作成せしめつゝあるが、平市內中等學校では目下十五日迄に縣に提出すべき學校修鍊隊案を練つてゐる

各校學校の種類に依り組織に相違はあるが、作業班、國防班鍛練班、文化班、學藝班等の名稱があげられてゐる

婚姻、出生激增
三月中の結婚五十二件
人的資源萬歲

平市役所の窓口に現はれた統計に依ると市內三月中の出生屆は八十七件、死亡屆が三十四件、婚姻屆五十二件、生めや殖やせよの聲が好影響を齎し婚姻、出生共激增を見てゐる

出生は男子が四十名女子が四十七名で每日三人弱が誕生してゐる譯となる、死亡は男子十三名、女子二十一名、差引男子二十七名、女子二十六名が三月中に殖えた譯である、尙ほ結婚の平均年齢は三十五六才である

警防强化の市會招集
あす前十時開く

平警防團の强化案を上程する平市會は明二日午前十時から市會議事堂に開くが附議案件は次の如し

一、十六年度追加更正豫算
一、部落有財產處分の件
一、市有財產處分の件
一、工事施工に關する件
一、寄附採納に關する件

体操大會
市役所吏員參加

五月十一日午前九時十五分から平商業學校々庭に開催する「体操大會」に市役所の〃老人組〃も參加する

每日正午市役所前庭で三年間繼續した吏員のラジオ体操を体操大會で上手になつた吏員のウデを公開するもの、早くも〃老人組〃の出場〃に人氣を煽つてゐる

創設七十周年迎へ
平郵便局で記念式擧行

平郵便局は明治五年五月一日創設されて以來滿七十週年を迎へるに至つたので平郵便局では今一日午前七時半興亞奉公日恒例の式を擧げ同九時から現業に支障ない範圍內で川村局長以下百余名の局員參列し縣社子鍬倉神社に於て記念式を擧行、終つて同境內へ記念植樹（ヒバ）した、尙現在横濱市曙町に居住する初代局長秋山勉行翁宛川村局長から祝電を發した

維新間もない明治五年五月一日『平郵便取扱所』の看板で現在の三丁目旭屋古着店附近に開設された初代局長秋山勉行さんは現在の一丁目郵便局附近一帶に地所や家屋を有した舊藩士で局長退任後稅關吏など官吏を勤め八十六才の高齢で前記横濱町に存命して居り近く墓參に歸鄕する旨同翁の孫に當る平驛前秋山時計店秋山季男さんへ通知が來てゐる

平郵便局當初の記錄はないが現在の田町マーケツトの附近に局のあつたとき火災に遭ひ平驛貨物取扱所附近に移轉、その後現在の局所在地に移り明治三十七年十月一日附で平郵便電信局に昇格、大正十一年二月十六日二等局に昇格して現在に至つた

郵便取扱所から
二等局昇格
川村局長回顧

別項、平郵便取扱所の出來た當時の平市は舊城下へ四ケ村が合併平町となつたばかりで寥々たるものであつたが現在は局員二百卅余名を有し、凡ての取扱數が縣下に誇る文字通りの大郵便局となつてゐる、七十周年の記念日に際し川村局長は感慨深げに語る

平市は轉任して日淺く昔を知るに由ないが、當時の郵便局は交通にも惠まれず、隨分苦勞が多かつたと思ふ、當時の局長さん秋山勉行翁が御存命の由ですから祝電を打ちましたが、七十年前を回顧して感慨深いものがあることでせう、この記念すべき年を迎へ平局に功績あつた物故局員の慰靈祭を行ふため在職中物故された局員の調査を進めて居ります

縣文化協會發會
渡邊、松村氏出席

縣文化協會發會式は明二日午後一時から縣廳第一會議室に開かれるが、同會の招聘に應じ磐城文化協會から渡邊久、松村亨兩委員出席することに決定、今後縣文化協會との連絡を密接に圖ることになつた

尙磐城文化協會は兩委員の歸平を待つて委員、顧問の臨時總會を開き縣協會との連繫に關する報告を聽き、今後の事業等を決定する豫定

小名濱鎭守
諏訪樣例祭
神輿の役付決定

小名濱町鎭守諏訪神社大祭は三日（舊四月八日）執行されるが、神輿渡御の奉仕當番は中島部屋で役付きは左の通りである

△祭の神、區長代理佐伯三郎氏△細女、町內會長木田谷平△御神樂、同小松重兵衛△大刀持、比佐政種、和田傳吉、近藤安雄の各町內會長

平署自營團
幹部會
八月初旬に開く

平署管下自營團幹部大會は八月初旬市公會堂に開催することに決定した

尙ほ入山、磐城、古河三大炭礦自營團査閱は六月十五日、自營團防空講習會は來る九月に開かれ防空演習前に開くことにそれ〱決定

揚繰網に更つて
鰹船愈出漁
大敷網も初漁

小名濱町沿岸漁業鰮揚繰船は既に半數は休漁し殘り半數も、ここ數日中には休漁に入る、尙ほ機船底曳漁船もボツ〱仕舞仕度で五月末日迄には總仕舞の模樣である、これに變つて鰹漁船第二東日本丸は先月二十九日出漁し浦安丸も三日には出漁すべく準備中である

小名濱大敷網は投網準備に多忙を極めて居つたが四月二十六日投網を了し初日八百圓二日目よりは五百圓位宛の漁で鯛漁のシーズンを眼前に控へて待機してゐる現在の漁獲品はヤリヱカ、小サバ、松鯛鯛少々、アジ、鯖等である

平の今昔
〔八〕
芭蕉の來訪語る
菩提院句碑
平警察署附近の今昔

平は久保町が一番最初に街の形を造り徐々に現在の市街に發展したもので、維新の頃ですら本通りの外は新川町が一寸した町で研町長橋町、紺屋町が第二位どころ、材木町や南町などは正に齒の拔けた樣な落莫たる町だつたし大町邊ぼ全くの田圃だつた。

前に書いたが南町はもと菩提院町と言つて今の平警察署の處に菩提院と言ふ寺院がありそのため町名もぼ提院と言つたものと思はれるが、杉木立の鬱蒼たる實に寂しいお寺で城主安藤公のぼ提寺としてお城山から移したものであつた、この寺が移される以前同處は仕置場だつたとは眞木翁のお話だがこれから考へてもその頃のぼだい院町は當今の南町が持つ遣瀬ない情緒など微塵もないそれこそ追剝ぎでも出さうな處だつたに違ひない。

警察署の前身がお寺や仕置場だつたなんてなんだか一つのつながりがある樣で緣は異なものと言つた感じだが住んで居る人にして見れば、大して味なものではないらしい。

横山署長の頃だと言ふから古い話ではない劍道二段の同署長は大いに武道を奬勵、署內の武道場からは每日ヱイホーの掛聲も勇ましく竹刀の音が激しかつた、處がどうしたことか稽古の度每に怪我人が出る、最初の中は氣にもとめなかつたが、每日の樣に怪我人が續出するのでさすが負けぬ氣の署員も心配し出した、その中にはカツギ屋も出て來てこれは埋葬された亡者の怨靈だと誠しやかに言ひ出し、一時は剛膽署長はじめ署員達も怖氣をふるつたと言ふ。

このお寺の境內に芭蕉の〃西行の庵もあらん花の庭〃の句碑があつたと言ふので、平署附近を調べて見たが見つからない、その後平火葬場傍の現菩提院に住職桐原英純師をお訪ねした處、あつた〱竹垣に圍まれてその句碑はたしかに〃西行の庵もあらん花の庭〃である、勿論この句碑は菩提院移轉の際山上に運び上げられたものでその前は舊ぼだい院の境內今の平署前小山材木店の處に一もとの櫻の大樹があつてその下に建てられ、句そのまゝ來る春每に落花紛々限りない情趣を添へて居たと言ふ。

今はその櫻は勿論、碑は前述の通りであるが處で果して芭蕉は當時平にやつて來たものだらうか、奧の細道には勿來ノ關を越した模樣はないし、その碑面にも露沾公とは刻まれて居るもの丶〃ばせを〃の名はない、どうやらこの句碑は露沾公が芭蕉の句を選んで建立したものではないのだらうか、それにしても同じく芭蕉の句だと言はれて居る平名所の一つ尼子橋を詠んだ〃みちのくの尼子の橋や稍の上〃蕉風である、尋ねる人もなくあれやこれやと思つて昭和十一年福島師範學校發行の福島縣大觀を見ると平城主內藤露沾公の傳記の中にどうやら芭蕉は間違ひなく平へ來て居るらしい、即ち〃露沾公は父凡虎と共に西山宗因に學び須賀川の相樂等躬を聘して待遇した外芭蕉其角を招いて唱和し東奧俳壇の重鎭だつた〃とある、して見ると芭蕉は露沾公に招かれて爛漫たるその櫻の下でこの句をものしたものだらうか。

平海產物配給所
卅日の委員會で圓滿決定

鮮魚の圓滑なる配給を目指し豫ねて設置の要望あつた卸業者の企業合同体（資本金全額拂込み十萬圓）〃平海產物配給所〃は平署長久和健一氏を委員長に推し委員、松本一郎、坂本直吉、關勝茂、松崎慶二、伊藤彌兵衛、久野西松(以上平)面川龜之助、長谷川昇三郎（以上四ッ倉）杉田喜作（小野新町）の九名を擧げ昨三十日初委員會を平製氷に開いたが同配給所は小名濱、泉、玉川を除く平署管內並に四ツ倉、小野新町署管下を包含する大世帶で許可あり次第事業開始の豫定にあるが今一日より事實上商工省農林省の要項に從つて開始する

郡下
牝馬檢定
左の日割で執行する

今年度平市並に石城郡下の牝馬檢定は次の日割で行ふことに決定した（括孤內は檢定場）

△二日、川前（桶賣校）△四日、上下小川、赤井、大野（上小川校）△五日、夏井、草野、四倉、大浦、內鄕、飯野、高久、平、神谷、好間、鹿島、豊間（平市八幡小路鍛鍊場）△十一、十二日入遠野（入遠野校）△十三、十四日上遠野、石住（上遠野種付所）△十五日、貝泊、荷路夫（荷路夫）△十六、十七日田人（田人校）△十八日川部、勿來、錦、植田、山田（山田校）△六日永戶、箕輪（永戶村合戶校）△七、八日、三阪（中三坂校）△九日、澤渡（澤渡校）△十日渡邊、泉、小名濱、江名、玉川、磐崎、湯本（磐崎校）

百年計画の
植林開始
四倉警防團計畫

百年の計畫で植林を計畫してゐた四倉警防團では昨三十日から全員出動檜二千本の植林を開始した

植林地は芳の澤地內で二日に終了する豫定、この植林は引續き補給し百年後に伐採しようと云ふ遠大な計畫である

水難救濟
四倉出初式

大日本水難救濟會四倉救難所の出初式は三日午前七時四倉漁業協同組合事務所前に集合し會員の服裝檢閱を行ない終つて鎭守諏訪神社に參拜、會員中出征將士の武運長久祈願祭を執行、終つて優良會員の表彰も行なふ

木炭配給
五日こ決定

平市では五日前回通り木炭を配給する

平の諸車
鑑札付換
五月二日から

平市では次の日割で自轉車、荷車、馬車、リヤカーの鑑札付換を行ふ

△五月二日、午前九時から午後三時まで公會堂、長橋町、研町、古鍛冶町、紺屋町、材木町、鍛冶町、南町、十五丁目、田町、搔槌小路、一丁目、二丁目（八幡小路、久保町△三日、大町、久保田スピーデー前廣場、南町、大町、三丁目、四丁目、五丁目、新川町、月見町、堤の內、立町、鎌田町、大工町鐵道官舍、南白銀町△四日、四軒町元自動車學校跡、胡摩澤北目町、舊城跡、北白銀町、幕の內、鯨岡、大室、中鹽、四ツ波、仲間町、△五日、第四國民學校上平窪、中平窪、下平窪

市是調査會
警備部門視察行

平市是委員會警備衛生部門（部長關內正一、吉田寅之輔、矢吹初彌大谷武雄、金子政通）では六日七日間の豫定で足利、長野、沼津市等の警備衛生施設視察のため出發する

名家、哲龍子師
欣淨寺で觀相に應ず

新潟市秋葉神社々司觀相家三元哲龍子師は平市內有志の招聘に應じ來平、明二日から一週間市堂の前欣淨寺に於て觀相に應ずることに成つた

同哲龍子師は墳墓研究、門標の考証等にも造詣深く、在平中墳墓の研究發表する計畫などもあり、求めに應じて墓相の出張觀察もする筈 尙時局柄職域奉公の建前で見料は一圓に割引すると

四倉町の
夏祭り

四倉町の夏祭り（八日祭り）は明二日から三日に亘つて行なはれる當日は同町鎭守諏訪神社、出羽神社、愛宕神社等三社の御輿を始め大野村の鹿島神社、十市神社、草野村天照皇大神宮の御輿渡御等あり當日は數千の參詣人で賑はひを豫想さる

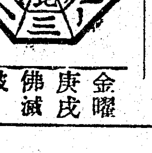
亡父供養
神谷家特志
公共團体へ寄附

平市田町(銀座通り)神谷八郎さんは亡父富五郎氏供養のため市內の公共團体へ左の如く二百二十圓寄附した

△五十圓、平市銃後奉公會△五十圓、平市警防團△三十圓、平第一校△三十圓、平第二校△三十圓、鄕軍平聯合分會△三十圓、平國婦分會

軍事講演
磐城

中學校では來る十七日末廣海軍大佐を迎へて海軍々事講話を行ふ



舊四月　七日
新五月　二日
金曜
庚戌
佛滅
破
牛宿

▲一白　掛合事は爭論の本となるべく見合すべき日
▲二黑　勞苦ありとも之に屈せず耐忍すれば利あり
▲三碧　辛酸を嘗むれども明智能く之を切拔くる日
▲四綠　萬事沈着に處理せらるれば漸次功を奏せん
▲五黃　分に安んじ大望を企てざれば平かなるの日
▲六白　元氣益加はりて計畫の大成を遂ぐるに至る
▲七赤　運氣壯大にして萬事通達するも迷ひを去れ
▲八白　上邊は吉なれど迷ひの爲に利得は滯らぐ日
▲九紫　目上に逆ひて身の不爲を起す和合肝要の日

土木建築
鐵道
船舶仲仕
三崎組
事務所 小名濱町日素前
電話五〇番
太田勝康

天氣豫報

今晚　南西の風晴れ
明日　南西の風晴れ一時曇り

父富五郎儀兼而病氣靜養中の處四月十五日腦溢血再發致し藥石効無く廿九日午前六時死去仕り候間生前の御好誼を深謝し此段謹告仕候

追而送葬の儀は五月三日午後二時自宅出棺平市胡摩澤長源寺に於て執行可仕尙時節柄御供物等の儀は堅く御拜辭仕候

昭和十六年四月廿九日
平市田町六十八番地
施主　神谷八郎
男　神谷忠男
親戚總代　神谷市郎
鈴木喜三郎
松崎勝彌
友人總代　管本庄治

乘合
貸切
馬車御案內
乘合區間平、夏井間、平發午前七時午前九時、午後一時、午後四時の四回
貸切馬車
運行は朝の六時から夜間は十時まで料金市內七十五錢、市外一キロ二圓五十錢一キロを增す每に一圓增
は新体制下に於ける乘り心地よき快適な仕立
大河原トラック部
同　**乘合馬車部**
平市大町　電五七六

高級なる運命鑑定
觀相名家　**哲龍子師出張**
安心の出來る運命判斷親切丁寧詳細でよく的る代人は寫眞必要、家相に出張
期日　五月二日より　一週間限り　午前八時半から午後六時迄
場所　平市堂の前　**欣淨寺內**